重心を“客寄せパンダ”に移しちゃ困る！

大前研一

ー菅直人厚生大臣にモノ申すー

今のご時世に、菅直人厚生大臣を批判するのは勇気にいる。しかし、彼が今までに何をしてくれたのか、と考えると「まだまだ」と言わざるを得ない。

菅さんはエイズで官僚の壁を破った、といわれるが、最初の勢いは消えて、今ではミドリ十字を中心とした民間企業の裁判の方へと話が向いている。何者かの力によってブレーキがかかってしまった。菅さんが圧力に屈したのは返す返すも残念だ。

しかし問題はその後だ。O-157で菅さんは初期動作を明らかに誤った。この病気は、アメリカやカナダでは良く知られた伝染病である。検査方法もかなり確立されている。今回も外国から検査機器や治療方法の提供を申し込まれているのに、厚生省は（阪神大震災の時と同じく）断っている。地震の時と体質は何も変わっていないのだ。

それどころか菅さん自ら「カイワレ大根」を早々と犯人に仕立て上げ、混乱を深めるのに一役買っている。かりに菅さんがＨＩＶの当時に厚生大臣をやっていたら、果たして明確な決断を下しえたのか、若干疑問に思えてくる。

それだけではなく、厚生省管轄の全ての事業が、いまや「火の車」である。一般生活者には、年金や健康保険の破綻が及ぼす経済的、社会的問題は深刻だ。この厚生省の二大事業に関して、菅さんは何もやっていない。むしろ、エイズで人気が出たことが災いして、仕事をやりおえてしまった感すらある。今ではさきがけの候補者の「客寄せパンダ」になって全国を駆けめぐっている。

厚生大臣の仕事の第一は、憲法で保証されている「安全と健康」を提供することである。あまたある仕事の中で、ごく一部の薬の導入を巡ってのスキャンダルの一端（全貌ではない）を暴いたからといって、大臣の仕事ができたと思ってもらっては困る。ましてや、その勢いで、新党の党首となり、やがては首相に、というのは、あ・ま・い！（いや、国民もマスコミも！）

薬に関しては、エイズ新薬だけでなく、ほぼすべての薬で今回明らかになったような「構造」が存在する。追及の手をゆるめずにとことんやっていれば当然その部分にメスが入り、今の厚生行政のもっともドロドロしたモノが浮き上がってきていたハズである。

菅さんは私も尊敬する政治家の一人である。その人がもっとも問題の多い役所の大臣になったのだ。自分に与えられた仕事をそっちのけで政局に重心を移してもらっては困るのだ。

（夕刊フジ８月28日号より転載）

大田知事は“沖縄の将来ビジョン”作りが先決だ

大前研一

ー太田沖縄県知事にモノ申すー

先週、菅厚生大臣に関して苦言を書いた。きょうはもう一人の人気者、太田昌秀・沖縄県知事に関して考察してみたい。太田知事は基地反対だけでなく沖縄の経済的自立にメドを付ける仕事に一刻も早く取りかかるべきだ。いや、そのメドが立ってから基地反対を叫ぶべきだ。そうでなければ沖縄の人々が何となく感じている将来に対する不安を一掃することにはならない。

今月８日に予定されている住民投票で、県や町の役所が「基地反対」を呼びかけているようでは、本物とは言えない。県民は自分の考えで投票すべきであり、役所からの呼びかけで仕方なく知事に同情票を入れるのなら、せっかくの県民投票の意義が失われることになる。

もう一つの問題は、基地跡地を巡るうさん臭い連中の暗躍である。新聞でも報道されているように梶山官房長官の私的諮問機関「沖縄米軍基地所在市町村に関する懇談会」が結成されている。たいしたアイデアを出すとも思えない東京のお歴々に混じって沖縄の有力者もこれに加わっている。

しかし、国に訴えられて最高裁まで行った沖縄県が、なぜ国に協力してこんなモノに参加するのか、まったく国民には分からない。沖縄は国に対して、自分自身で作った将来ビジョンを、突きつけるべきだ。ビジョン作りまで国の言いなりになるのなら、なぜ、全国民を巻き込んで基地反対運動をやったのか？

結局、「ゼネコン型」の跡地利用が出るのなら、太田知事と橋本総理のけんかの巻き添えで、国民は大枚１兆円を寄付させられることになる。ましてやまだ移転先さえ決まっていない普天間の跡地計画として、ディズニーランド建設のような案が、商社筋ですでに持ち上がっている。

冗談じゃない。土地は地主に返して彼らに使い方を考えさせろ、と言いたい。自分で何に使うかも分からない連中が、何で「返せ！」と言ったのだ？

太田知事が本当の英雄になる日は、沖縄の経済自立にメドを付けたときだ。（サトウキビやパイナップルなどに対する）補助金や、大規模土木建設ではない「基地に変わる沖縄の将来ビジョン」を出すまで太田知事がエエ格好すればするほど、われわれ国民の身が細る、ということを覚えておいてもらいたい。

（夕刊フジ９月４日号より転載）